

平成 27 年度第 2 回経営戦略会議 議事要旨

日 時 平成 27 年 9 月 9 日（水）12:00-14:00

場 所 産総研東京本部大会議室

<委員>

松尾清一議長	国立大学法人名古屋大学 総長
内永ゆか子委員	特定非営利活動法人ジャパン・ウイメンズ・イノベティブ・ネットワーク（J-Win） 理事長
榑原定征委員	東レ株式会社 相談役最高顧問／一般社団法人日本経済団体連合会 会長
高橋政代委員	国立研究開発法人理化学研究所 多細胞システム形成研究センター 網膜再生医療研究開発プロジェクト プロジェクトリーダー
中許昌美委員	地方独立行政法人大阪市立工業研究所 理事長
野路國夫委員	株式会社小松製作所 代表取締役会長／経済同友会 イノベーション・エコシステム委員会 委員長
本目精吾委員	株式会社エリオニクス 取締役会長
(ご欠席)	
五神真委員	国立大学法人東京大学 総長
山海嘉之委員	国立大学法人筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授／国立大学法人筑波大学サイバニクス研究センター センター長／CYBERDYNE 株式会社 代表取締役社長(CEO)／内閣府 ImPACT 革新的研究開発推進プログラム プログラムマネージャー

<産総研>

中鉢良治理事長、副理事長、理事、監事、領域長、他

<会議の概要>

平成27年度第2回経営戦略会議では、橋渡しにつながる「目的基礎研究」に焦点をあて、産総研の現状と取組について、ご審議頂きました。また、最新の研究トピックスとして、「スピントロニクス不揮発性メモリによるIT機器の省電力化」を紹介しました。

<委員からの主なコメント>

- 産業界ニーズの高いIT分野やものづくり分野で画期的な新製品を実現するためには、数多くの技術を組み合わせることが必要です。産総研の学際的な強みを活用し、異分野融合の研究を一層推進して頂きたいと思います。
- 目的基礎研究によりシーズ技術を育てて、産業応用につなげていく「リニアモデル」も大切ですが、様々な大学にある数多くのシーズ技術を活用して、実用化に結び付けていくことも重要です。産総研には、人材交流も含めて、オールジャパンの視点による「橋渡し」研究機関としての今後の活躍に期待しています。
- 大企業の中央研究所、基礎研究所は、特定分野の研究に絞りがちです。産総研には、もっと広い視野で、これまでに無い製品の実用化に向けて魅力ある異分野融合の研究を推進して欲しいと強く感じています。
- 企業の研究所では、定年まで研究者でいる方はせいぜい1割程度です。一方、研究者の新陳代謝は非常に大事な視点であり、産総研においても、「若手を一定規模確保する」ことには、積極的に取り組んでいく必要があると思います。
- 今の産総研には、技術そのものに世界トップレベルのオリジナリティとレベルの高さが求められると思います。外国人や大学研究者など、異文化の方を取り入れて、刺激し合い、新しいクリエイティブな仕事をするのが重要です。それが世界のナンバーワン、オンリーワン技術を目指す大きな原動力となるでしょう。
- 産総研は日本の全ての産業分野をカバーしているようだが、リソースも無限ではない中、ある程度戦略的に絞り込むことも、そろそろ考えるべきではないか。
- 研究分野のプライオリティについて、資金の割振りや人事制度などはっきりとした形で、常にレビューしながら取り組むことが必要です。また、世界でリーダーシップをとるためには、グローバルに連携を進めていく必要があります。

- 大企業との連携よりも、ベンチャー企業の立ち上げや中小企業との連携といった事を、もっと積極的に行って頂きたいと思います。数多くのパテントを持ち、経験も豊富で優秀な研究者が、産総研を後ろ楯に、世界中でビジネスを展開するようになって欲しいと思います。
- ライフサイエンス分野でのビジネスモデルは、物理、工学分野などと比べて随分遅れを取っているのが実情です。産総研には、ライフサイエンス関連のベンチャー企業が少しでも多く立ち上がるような支援や仕組みの構築を期待しています。
- 現在、全国には地域の特徴を捉えた公設試が数多くあります。今後、産総研と公設試とがより連携を深め、公設試を通じて中堅中小企業の支援をしていく、あるいは直接支援するなどして、地域の中堅中小企業の牽引役を果たして頂きたいと思います。
- 産総研が支援すべき中小企業は、世界で戦える数の限られた企業だと思います。産総研には、世界レベルのポテンシャルのある中小企業がどこに存在するか、あるいはその実力はどの程度なのか、といった情報を常に把握し、全国的な視点で中小企業との交流の輪をより深めていって頂きたいと思います。
- 破壊的イノベーションは、既に十分な利益を上げている既存の大手業界やメーカーからは起こらないものです。例えば、アメリカでは、異分野どうしのベンチャー企業が融合してイノベーションをもたらしています。既存の業界、メーカーを大切にすることも重要ですが、産総研には、思い切って既存の業界を破壊してでも新産業を創っていくという視点も意識していくことが必要だと思います。